

# 本場・北部市場

# 入荷から出荷までの流れ



## 入荷

せりの前の日から  
とうじつあがたにかけて  
当日の明け方にかけて

卸売業者は日本各地や海外から

たくさんの品物を集めます。

集められた品物は卸場に並べられます。



## 下見

せりのはじまるまでに

仲卸業者や売買参加者は、並べられた

品物を見て、品質・鮮度などを確かめ、

何をどのくらいの値段で買うかを決めます。



## せり・相対

【魚のせり】朝4時から

【野菜・果物のせり】

本場…朝6時から

北部市場…朝6時30分から

卸売業者から仲卸業者、売買参加者に

「せり」や「相対」という方法で

販売されます。



## 買出し人に販売

小売店やスーパーなどに  
午前中

仲卸業者は、買った品物を、市場の中にある

お店に運んで並べます。買出しにきた小売店や

スーパーなどの人たちは、ここで品物を買います。



おし  
教  
えて!  
下見

下見は、なぜ必要なのでしょうか？



生鮮食料品は、工業製品と違って、畑や海、牧場など、「自然」のなかで育つため、一つ一つ形・大きさや品質が違います。また、時間が経てば鮮度が失われていきます。だから、何をどのくらいの値段で買うかを決めるためには、実物を見て品質や鮮度などを確かめる必要があります。



「せり」や「相対」とはどんな方法ですか？

「せり」とは買う人（仲卸業者や売買参加者）が競争して値段をつける方法です。一番高い値段をつけた人が買ることができます。  
「相対」とは、売る人（卸売業者）と買う人とが相談して値段・数量などを決める方法です。

おし  
教  
えて!  
せり・相対

